池田

畧譜

和書門 類
四二三六一號
一八〇函
四架
五冊

内閣文庫
和書 類
四二三六一號
五冊
一五六函
一一架

内閣文庫	
番號	和 42361
冊數	5(1)
函號	156 18

浅草文庫
記録御用所

源姓
池田

源頼光六代池田右馬允泰政後胤
摂津国住人池田宗次恒利男池田
勝入信輝之男

日本政府図書

池田備中守　初　勝三郎

嫡祖
長吉

母　荒尾美作守善次女

妻　播州三木城主　別所豊後守忠次女

内閣文庫

天正九巳年十二歳於大坂秀吉公為子ニ
被成号羽柴賜澤瀉紋旗為本紋○同十二
甲申年長久手一戦之節為後備ヘ先ん
達而引退○同十三乙酉年十六歳ニ而任侍従号
○同年於聚楽第 秀吉公○同十五丁亥年
薩摩陣ニ供仕○同十六戊子年相良小田原陣
供仕○同十九辛卯年朝鮮征伐之節肥前名
名護屋在陣候 秀吉公○文禄元壬辰年

於筑前名護屋朝鮮渡海船手之節揚
名島 大船若下号 ○同三甲午年大龍献上手之節
○慶長二丙申年 秀吉公薨去之節遺
物○同五庚子年
於関原表石田征伐之節供奉○八月廿
二日兄輝政与済新納彼阜城ヲ追散自
身ハ伊吹小高山ヨリ打寄岐阜之城ヲ責
落従

検見様ゟ取箇状頂戴之、所持仕候処去
年火災之節焼失仕候由申候ニ付

御取箇状写

焼失之由申候ニ付 取箇状紙写差出、
二方郡七釜村庄屋長左衛門と申者之所ニ在
之候ニ付、右写仕候様申付候、池田
差遣候様申渡請取方へ差出候

右今般之表ゟ於此方ニ別ニ写ニ入精候様
自身ニ心掛ケ早速遂吟味、急度致可被申
尤右帳面之儀ハ中仙道通ニ押ゟし申付候

我等ゟ従此旨可申達候、六郷出羽殿ゟ指図申候
右之儀申之候

八月廿七日

御判

池田備中守殿

同五庚子年九月攻江州水口長束大蔵
同伊賀守関城ヲ之一命ニ以浮井徳御歎之
随テ於中江切腹仕候由其外長束之令旅
御宝備中守ニ上御下知○同年十一月因幡国
鳥取城御下並ニ高六万石余拝領○同八癸卯
年御見 御城御普請奉行○同十一丙午年
江戸御普請奉行備前之節国家御取行
御高拝領○同十二丁未年駿河石垣御普請○同

十三戊申年 禁中築地石垣普請○同十四己酉
年丹波篠山石垣築○同十五庚戌年
丹波亀山御普請○同十九甲寅年 江戸
御普請○同年九月廿日於江戸病死四十
六歳芝高輪東禅寺葬

長幸 池田備中守 出雲守 法名
長幸迄代池田出雲守長常之代ニテ断絶

長貞　寛永十二年ニ死
池田三左衛門輝政家来寛永年中ニ死

長政　池田下総守
池田三左衛門輝政家臣ニ而死候

長頼　池田豊後守
慶長六辛丑年
台徳院様江初而豊後守ニ罷成候而御目見仕候九
元和年四月四日兄長幸病気ニ付家督

相続仕候処長常次男ニ而御座候長純上ニ罷出
仕候得共仕候処御暇被下長常ゟ病身ニ付又長
幸御暇ニ成候趣有之付右遣候ニ付合相続
仕候処次男ニ而御座候ニ付罷出仕候家
而縁家来并浪人其後元年中同人仕候處
長頼病人ニ而御遣候ニ付長頼家督
仕候処同年中御目見
上聞ニ付奉行仕候長頼ニ被成候

於宅ニ従ハ此生ニ而忠ニ錯ニ而加ニ切揖
服坂法路与ニ而荘ニ此生切腹候テ頁中此其
席ニ集候ハ親類縁者登而法ニ付長親候
同月六日切腹被仰付候 済斬候

初代
長賢 池田帯刀 初九門

母 因幡国濱湾氏鈴木備清景女 初長治

妻 因幡荒志摩守忠重女

慶長十四己酉年 月日不知

檜伊様ニ於駿府 御目見仕候 元和己未年

大猷院様ニ御附○同年 月日不知 奥御小姓御切米三百俵○

同八壬戌年六月致目御小姓組番頭○同九癸亥

年 月日不知 武蔵国多摩郡百間領ニ而知行千石

○同年 月日不知 叙爵 称帯刀 ○同年七月二日

大猷院様 御部屋ニ被仰付○寛永二乙丑年

御加増二千石○同十一甲戌年六月十六日御書院番

頭○同十二乙亥年十二月廿日御加増二千石 都合六千石

○同十九壬午年閏九月廿日發府在番○同二
十癸未年十月廿日帰府○慶安二己丑年
十二月十二日尾張大納言殿紀伊亜相殿小松中納言
殿國元江為御使○同三庚寅年十一月十九日大番
頭○同四辛卯年二月廿七日二條在番初之○
寛文四甲辰年二月十二日二條在番中病死八十
歳京都於積善寺葬右長賢為遺物備前
光忠刀代金五枚献之

長清

池田備中守 後帯刀 三郎 初名三郎助
始長政
母 同前志摩守忠重女
妻 同前之助忠吉女
承應三甲午年六月二日 御目見○万治
元戊戌年閏十二月廿七日叙従五位下號
備中守○寛文四甲辰年四月廿八日家督襲
○雅樂頭番年月○同六午年十月十六日發府

加番○同年八月廿三日御役御免○同八戊申年十月二日赤坂御門番○同年
十二月九日御簾役并力之役○延宝五丁巳年
六月廿日御小姓組番頭○同七己未年六月十四日
紀伊中納言殿国元ゟ之御使○同年八月十二日
御書院番頭○同九辛酉年八月廿六日駿府
在番被仰付○天和二壬戌年正月廿一日御加増五百石
都合七千石○元禄四辛未年駿府在番○同六癸酉
年九月廿六日大番頭○同八乙亥年二月廿八日

二條在番被仰付之後二條在番ゟ大坂在番ニ被仰付○宝永七庚寅年
閏八月十日大坂在番中病死六拾六歳京都
梵領寺ニ葬○為遺物順慶刀代金五拾貫献
上○
厳有院様ゟ御筆之御画拝領仕持伝申候○元禄
十一戊寅年九月六日類焼委細相知不申候

女二人
嫁合　松平伊予守康朗妻
交代寄合竹中左京重高妻

長元　池田大膳　初帯太郎

嫡母　同前ニ御忠右女

實母　家女

妻　大番頭三浦肥後守便次女

寛永四丁卯年十二月廿八日　御同目見○同七庚寅年十月廿二日家督相續○承応二癸巳年（同年十二月二日御目見）十二月九日御書院番○同三甲午年八月廿九日

文昭院様ニ面見正徳年中被仰付之奉公番○享保三戊戌年三月廿日泉御門番○同年三月廿一日小石川御門番ニ被仰付○同年六月廿二日病死六十二歳深川霊巌寺ニ葬

長矩　池田権之丞（実池田氏後ニ改度四男）

元禄七甲戌年長清養子ニ仕○同八乙亥年二月廿八日　御同目見○實父子長元四子ニ付溜

仕松平淡路守番頭之年人正嫡子之兄也

長男　池田造酒助
兄長之嫡子

女　甲州勤番支配坪内伊豆守定堅妻

次男　池田帯刀　初造酒助　今主計
嫡母云々

書云
兄長之嫡子　年月少初○享保三戊戌年九月二日
家督相續○同年閏十月六日　御目見○同
四己亥年九月廿日[illegible]
[illegible]○同五庚子年正月廿八日[illegible]○同七壬寅
年同月廿同日病死二十一歳深川靈巌寺葬

女　寄合中根平十郎正美妻

実ハ清西大膳紀正景次男
長興　池田備中守　初辰之助　帯刀　左門

母某
妻 伊東播磨守長祐女

享保七壬寅年四月廿二日養子○同年六月廿九日
家督寄合○同八癸卯年二月九日家督御礼
従五位下○同十五庚戌年四月朔日御目見○同十八
癸丑年正月廿二日雉子橋御門番○同二十一
丙辰年正月十九日御免○同年二月朔日
火事場見廻○元文二丁巳年閏十一月十二日
中奥御小姓○同五庚申年十二月廿一日諱更
備中守○寛保三癸亥年七月十一日御免寄
合差扣○同年九月十七日差扣御免○延
享四丁卯年六月七日駿府加番○同年九月
朔日御暇○同五戊辰年六月廿六日於駿府朝
鮮人来朝ニ付御馳走○同年十一月十八日帰府御馳
走○同年十月六日帰府○寛延四辛未年

九月九日部屋住ニテ御番入○宝暦四甲戌年九月廿日
小普請入○同七丁丑年浚明院様御番入○同十庚辰年
十二月十六日小普請入○同十二壬午年六月十六日病
死五十九歳深川霊巌寺ニ葬

長壽
池田帯刀　初　萬之助
母　伊東播磨守長祐女

妻　伊東長門忠知女　松平伊予守家臣改姓
宝暦十三癸未年三月十六日　御目見○同年
孝恭院様　御宮参之節小人跡ニ付
然処父服中ニ付出仕不勤○同年九月廿日
同年十二月十九日小普請入
家督○明和三丙戌年七月九日馬場曲輪西
小番○同六己丑年七月十日小普請○同七庚寅
年六月廿二日病死二十七歳深川霊巌寺ニ葬

明和七庚寅年七月廿日養子家督寄合
〇同年十二月七日御目見〇安永三甲午年
三月九日馬場曲輪両御番所〇同年六月十一日
駿府加番〇同年九月駿府出張〇同四乙未年
十月二日帰府〇同五丙申年六月廿日火消役
〇同年十二月十六日布衣〇天明三癸卯年十二
月十日病免寄合〇同六丙午年六月廿二日
浅草口門番〇寛政元己酉年六月十一日火消

清弥 池田織之助 兄長篤養子

女 寄合六角図書頭広寿妻離別再
小普請北条采女元丈妻離別

池田備中守長興次男
清彌（マス） 池田左門 初織之助

高七千石 武蔵常陸下総上野之内

母 家女

妻 寄合菅沼淡路守定順女

後妻 寄合牧野織部忠和女

○同二庚戌年十二月十八日於吹上之歩射　上覧
○同三辛亥年九月十八日於吹上之騎射　上覧
此節以後揚弓戴○同八年十一月廿八日依病気ニ付隠居家督
○同九年正月十二日卒

[redacted]長繼
池田伊三郎

寛政三亥年七月廿八日初而小姓組入勝手ニ御附同年
八月十五日御番入○同九月廿七日初而御目見○同八年十二月
廿六日家督○同九年正月七日御目通ニ而御礼○同九年正月
十二日御免

高七百石

源姓
池田

松平又馬助政武次男　政武家傳ハ自家當附 松平??

政親　池田三之丞　初彦之丞　数馬　三郎

母　家女
今壽

延享四丁卯年七月廿一日政武ゟ七百石内
分地ニ而被附○同年八月隠居方御礼

○元禄十四辛巳年九月廿二日小姓○家督
二百石同年十二月廿八日小普請入[illegible]仕
○享保九甲辰年十月九日小姓組○寛延
二己巳年二月六日病身ニ付小普請入○同三庚午年
十二月廿一日病死七拾[illegible]歳[illegible]葬

政朝　池田左門　子也

政勝　池田半[illegible]　退休
母　家女

妻

寛延三庚午年十二月廿七日家督小普請入○
（○同巳年三月十九日家督御礼）
明和八辛卯年十二月廿七日隠居○天明二壬寅
年十二月廿一日病死七拾[illegible]歳[illegible]葬

女子　二人　子也
一人　小姓組[illegible]
中根[illegible]妻　後離別

寛政六年十二月十六日吹上
大的射候ニ付中黄
朱十五日上

政貞

池田雅次郎

初輝貞　高千石

実母

養母　家女

妻　松平大隅守厚妹　後離別

明和八卯年十二月廿七日御目見　寛政八年三月廿五日家督小普請○同九巳年

寛政二戌年二月廿六日

書院番○同年十一月廿日御徒頭

○同年十二月十八日布衣○同七丁未年十二月

廿七日国々御巡見御用○同九己酉年正月

十五日御巡見ニ付被遣之御褒美金子拾枚拝領○豊前

豊後伊豫大隅壱岐被仰付候ニ付

年閏六月八日御目付○同月十九日御目見○同

年九月廿二日西丸御目付○同十二子年八月

西丸書院番頭

五月○同年六月廿八日寛

政役ニ付

西丸目付

廿二日右同年中御役儀御免被成為（湊）御紙精
御勤方宜ニ付時服弐ツ寛政己酉年
十二月廿日西丸ニ而紀伊殿ニ而寛政四年四月廿日
孝順院様御誕生御開御役同年九月十八日御暇
初而御役被成御用相済義ニ付同年六月廿日
孝順院様
御葬送御開七月十七日老衆ニ而同月十六日
御宮様御棺向御見分御趣意相済御不叶候ニ付
其儘御止メニ同年十二月廿八日寛政御紀伊
同七卯年四月十二日

孝（?）様御誕生御開同年七月廿二日御暇出御開門
正月廿二日老衆ニ而同年十二月廿日御出入之御門
御（?）紀伊殿ニ而同八辰年十月廿日御役御免被成候
相役同年十二月廿九日御役御免相成候十二月
中ニ而御目見同九巳年十二月十二日相済
寛政十二月中ニ而御目見同十年年十二月
十二月相済未年十二月中ニ而御目見
御役被下

宝常　松平縫殿[illegible]
安永二癸巳年七月廿六日生
松平大隅守[illegible]養子

政當　池田西（卯）兵衛　初登
寛政二庚戌年九月[illegible]生
池田[illegible]養子

政富　池田[illegible]忠
寛政六甲寅年六月十八日生　[illegible]

源姓
池田
[illegible]十代[illegible]池田[illegible]
[illegible]池田[illegible]代池田[illegible]
[illegible]代池田道清[illegible]養子
四月[illegible]医師
実父池田道[illegible]第二男
池田朝[illegible]清　初[illegible]　道清

重富
[illegible]
医師
実母[illegible]女

妻　浪人　遠山佐助二女

[illegible]二庚子年十二月廿三日[illegible]医師

[illegible]二丁亥年

二月廿八日[illegible]

[illegible]還[illegible]同年

六月[illegible]年十二月[illegible]

[illegible]家[illegible]戌年

正月[illegible]丁亥

年正月[illegible]年二[illegible]氏

家名今小笠原　池田男児祖

季隆（スエタカ）　池田[illegible]八郎　幼[illegible]八郎

母　遠山佐助二女

妻　[illegible]女

文化[illegible]巳年十二月廿六日[illegible]

新[illegible]百俵[illegible]

文政[illegible]入[illegible]

[illegible]乙巳年十一月[illegible]九日[illegible]

慶安〇年十月廿七日初而御目見〇寛文十己酉
年十月廿五日御先手小普請入〇同八年十一月
八月九日御書院番再勤〇同十九寛文癸丑十二月
御膳番被仰付〇元文己未年十二月
御留守居番被仰付廻船改役被仰付
〇宝暦元辛未年九月十日御小普請入〇
宝暦〇未年八月九日御役宝暦己卯年
十二月八日病死七十八才法名泉寺葬
〇初而御目見御小普請入

季庸 池田長八郎 内記之子

一 母 大久保氏之女 貞享年中生女
妻 本多氏女 享保年中生女

宝暦己未年八月九日家督御小普請〇宝暦三
酉年十二月廿日御書院番〇同六丁子年十二月
六日御番入 小普請〇同十二年十二月
六日御先手御徒頭〇同年十一月
二百年 大番 〇同年 同月

二百俵御相続仕候以後御小納戸御役料三百俵
○同八年八月廿八日より御武具奉行被仰付候
被仰付○同七寅年七月十七日御年貢御皆済
御役目相勤候ニ付御褒美被下置候○同十一月
六日御勘定吟味役被仰付○安永六酉年正月十一日（御勘定吟味役之儀被仰付候）
御目見○同年月日より御勘定組頭
被仰付候○年月日より
御目見○年月日より御勘定奉行被仰付候
日光山御修復御用相勤候ニ付御褒美被下
被仰付御用被仰付候大目付○御役料

御勘定奉行御用相勤候ニ付御褒美被下置
被仰付候大目付○御年貢米之儀被仰付
被仰付候今般相勤候ニ付御年月日より
より御小姓組番頭御用相勤候ニ付被仰付候
御役料被下置候御論所見分被仰付
御用相勤候御役料被下置候○安永
寛政十二申年十二月より御隠居○寛政十二年十二月
同日病死七十六歳

重雄　後信豊　嫡子

寛文四甲辰年十二月廿四日小倉住
福岡三左衛門清方養子

季林（シゲ） 平岡金之丞 初六之助 今金吾
同十二未年十二月廿日小倉居
平岡道有末子

季壽 大塚喜之丞 初万蔵
後雄庸（カツナリ） 雄謹之末子
正徳元辛卯年八月十三日卯刻小倉に於て生る

女子
一 大久保平左衛門妻
一 元禄六年生 早世
一 宝永六年生 山田勘兵衛政経妻
一 正徳元年生 柴田弥次右衛門雅妻

某 岩政之丞 早世

但季（タダスエ） 小幡岩田勘兵衛政経二男
池田九郎 初 武助 平助

養母 渡辺長兵衛 甚助女
実母 祖父 季之助女
妻 祖父 季之助女
継妻 寛文十年生 飯山権平衛 右兵衛女
女 百石 後藤

明和六年十二月十日継嗣長子○同年
十二月廿六日 御目見○安永八年十二月十六日
家督四千石を継つく時に十七○天明元年閏五月
廿六日御書院番○寛政元年閏六月九日新番頭
へ〇同七年二月十一日御持筒頭となり
御先手鉄炮頭ニ転し後ニ埋葬地は廻船
町に葬る○御附なる御小普請組支配より
同九年十月廿日大坂町奉行となり今
の代に仕ふ○無嗣不幸之故に於て二男を

女子 某人 長子某妻 三人早世
長女 小普請 一柳市兵衛某女 妻

某 池田永之丞の養子 早世
孝高 池田谷之丞の養
某 池田銀之丞の養

女子二人　養人子也

紀州雜賀ノ誠ヲ雜賀ノ
孫市子孫鈴木太郎左衛門
實子也
池田ヲ
道清ト某長子ト
ある

源姓　實氏鈴木

池田

實父天野谷池田何某渡瀬道清

後人何某次男之也

某

池田道清

此何者之娘其名不知

何分ヨリ武州住浪人醫師ヨリ京都ニ参照所

療治相勤候處右道達清先祖河案路佐々木
家ニ随身仕近江國多花之中ニ居住仕
大坂冬夏御陣之後大坂籠城之子細之
穿鑿在之今ニ相成候ニ付江戸ニ罷出候

初代先祖書
仙庵　池田道達忰
池田云達

年月不知大坂表ゟ江戸ヘ罷下リ医師久保
玄貞事子成○寛永五年十一月十五日　病死

常憲院様御代元禄二巳年十二月廿二日被　召出
御切米弐百俵被下置○
有章院様御代享保元申年四月晦日奥御医師
年月不知○寛御役寄合○享保十七子年十月廿九日病死
上野寿昌院ニ葬

重厚
池田貞碩
同病死居享保十五戌年十月廿六日病死

[illegible]

六代
建甫（トシスケ）　池田玄隆

勝満　小野宗卿
来月□和須受人氷（？）新家書在子〇後兜半介

女　浪人醫師　池田玄碩朴甫妻
右玄碩者玄達弟子ニ而寛延仁和氏四月□□□
池田之苗字免之候

七代
文収（アヤアキラ）　池田玄達　初牛之助

母家女

享保十八巳年十二月八日家督中玄隆〇収継
九年三月廿八日御番医師〇安永三午年
□月日光　御社参御供〇天明二寅年十二月
廿八日病氣ニ付願之通〇寛政五年十二月廿二日隠居
同六年十二月廿九日死〇年六十□深川浄心寺ニ葬

孚徳　池田玄隆　左京
寛政五年十二月廿二日家督二百俵之内□□二百俵

高百六拾俵

女 殤

女 平賀貞臣某妻

女 松平能登守家人 依度勘平某妻

後松平六郎右衛門某男某に嫁し離別後依度勘平某養女

源姓

池田 本姓佐々木

宇多天皇拾五代近江守信綱佐々木

太郎兵衛尉定綱之後池田と号十四代池田

孫太郎忠友男

池田浄録号 孫次郎

秀雄 初景雄

永禄七年十四歳にて織田信長に仕へ

其後[illegible]守に[illegible]秀雄従安

謁て旗下ニ属せしむ元亀元年九月
廿四日朝倉浅井山門之僧徒と坂本ニ戦
信長方の勢ひ乱て破らる此時日根
野兄弟稲葉伊豫蒲生忠三郎と
秀政其人なりし天正元年七月十六日
信長義昭将軍を槇嶋ニ攻の時秀政
柳山ニ屯ス秀政信長ニ従ひ同日宇治
川の先陣某仕へし昔我先祖佐々木
高綱宇治川を渉るの古例有とて信長

同名此先陣ハ其家なりと秀政再
請ひ某ニ先陣を給はらずんは我
武道の大恥なり我自殺して面目を雪
くと也依て信長許諾しそ云高名おもはす
ることたましと余語に合ひ尋云ニ同しく
宇治川を渉る蒲生忠三郎ハ其家の名
あると承ると云此ニて水ニ達ありしかく
許しく渡らし秀政同日川ニ渉り川
繋を廻らんとし小敵大ニ鉄炮を放して
秀政ニ居ニ付て陣営ニ帰らんとす途まて

汁様と得たり捨んとするに摩利支天の
霊廟也秀雄是を聞て軍士に示曰是廟有
先氏門を護て吉瑞なり一軍皆之を
増て夜まて軍中に令して鳴る川を
渉ん敵の後絶に向て俊通伊人就りて敵より
縄を水底に入て馬足を絆せん我全君と先
まつ寄るとして渉らん河の中歩渉を下知しけり
果と稍たれは渉り水も兼て敵前なる秀雄増水絶て渉
忽渉り門に至て入て討とつまに敵城中に入
とし秀雄従り追て首二級を得

たり秀吉義昭と和して河内に退く
信長秀雄に問河内を渉て敵の為に後に
向は役に兼て言ふ水深く絶敵備ふ之
や信長康田政年かに之大老軍監に
雲林院盛家の餘を併加秩二千五百石
天正六年信長伊勢の水軍を発大坂の
同城に銭て軍功にて同七年四月五日
中書郡船七百艘に米穀積て大坂城に入る
秀雄本津令て之を待て河にて軍を秀
雄兄を撃て塙伝中門に於て年甚衛

主君の折死秀雄嫡子なる新加藤
市と合戦と合録市を討〇同八年信長
信忠と攻ゝて多賀尾に軍を〇同十年春
二月信州征伐として織田と戦信長公の
後旅に〇同十一年二月秀吉の使として
ある長浜より賤ヶ嶽に出る〇同十二年
小牧の軍切と〇同十三年十二月島津と合
戦ふ子羽吉祥法印の加賀ある〇同十八年
三月小田原陣の敵軍に諸長深秀吉

太き歳にして秀旅と称す〇文禄元年
朝鮮の役にも名を率て渡海る〇同に
年福島正則（秀旅）福島太郎なる人の子人なる秀
吉の使として文禄と書と在ら子の公
ともしてる好と山に到る秀次と自殺せしむ
〇慶長二年朝鮮に到る長兵衛都元親
籠城してる中川修理加藤左馬助等
子十二人〇先同く朝鮮の陣に到る〇同三
年三月海を朝鮮に安骨浦にて病と
病て死す同年十八歳

秀吉公より拝領之物目録

一 上様へ

楚琢了手本紀文　御法衣　御袈裟の物さあさや

御つまさし　大名殿　御つまさし　さゝむし　宝物の花さし

大法衣　小壺　大くり毛志足

ふち法華経　ゆひきき　唐人かふ人　関東人 君殿　大鷹　日居

此外茶之湯之物可有之

以上

[illegible]

知行

一 江州蒲生郡浅小井

一 和州内二万石内一万石伊賀へ 是自秀吉公拝領

一 讃州内拾弐万石内五万石伊代支配

一 郡五　越智　新居　桑村　宇摩　周布

一 居城国府

一 馬符葛笠其外こしらへ毛

一 立物鹿之角

一 家中書物物合之様

右知行ハ秀吉公御判下今ニ持傳

池田伊予守　孫次郎

秀氏

慶長三年八月十八日秀吉公薨去し給ひ
家康公伏見に於て天下を預る○此秋太閤薨死
去利家ハ鎮としてもし其物成主人の刀を預
今子ハ石将初父秀雄石田に屬し隙ありて秀氏
家督を継く其日三成に謀らるゝ其地合の
瀬もとる○此列山地合一揆蜂起のとくさ

大和大須にて軍を七口に分りて秀氏ハ黒田
氏と共に情賑を破りて首級四千余とる十七歳
こゝに無き小来二石家領○慶長五年
七月廿六日大坂より出城の旗本を拒きて十日許
又播州竜山城に往けり其東大花杉浦安芸
まで毛利甲斐守木富田信濃守か津城を攻を
気によりて秀氏か不を帰くに竜山城を去る自毋
衆ら千余にて率りて津の池に出兵を擁し
八月廿日秀氏京に至て攻大垣城中より
後施を救秀氏ハ中村と六いたれを程甲

にハ又是非自家臣の首をとらせての十人ハ底
それをもの六人ハ感状をそへ二人ハ増禄弐
百石をそへ同じ兵衛国俸を削奪し
高野山に逃る僧を糺し其山の衆をとらへて関
東に蒙をを遣して石田が侍に逢ひて河津
韮野城に入て守りしを云秀氏は謀を為る
城門打板をかけ造りし楼櫓を燒て秀氏自
沙を以て標を守る時に渡り法名を常貴とより
書を得て曰関東に腹まし関の東の敗
追て其後ハ

と申秀氏に母子あり名を氏と云ふ其京にて
細川大蔵判官の為に軍を起して又白菊京
網にて秀氏の陣に首十八人を得つて此首最
尊き高虎家臣に書をおくりて云庶高野山
に逃れ下り高虎秀氏の臣梅原勝太郎
を招き家臣とし秀氏ハ高野山に入らしく
前官高虎より赦を
東照宮よりも又秀氏を召して高虎に預け
高虎の封地讃岐に行 明年 国安彼

と称し京都に於て出家し號ス 旧領武之と称ス
○同十九年大坂籠城の時若者取結
豊親公を徒と沙汰し城中にといへとも
遂せすして蟄居し大坂落城の翌
年京師に虎仙(?)へ招(?)来
居といへともなをしく京師よ
隠居元和七年八月廿五日死す年九十
後同
御朱印之写

於和州廣瀬郡一万二千六石紀州有田郡
那賀郡内弐千石伊都郡宇麻郡新
居郡内八千石都合弐万石事相添
目録別紙令扶助之訖全可領知者也
慶長二
八月廿二日　御朱印
池田孫次郎とのへ

貞雄　池田勘之丞　子加賀

初雄は七歳の夏より高臺院太閤後室殿下に
侍し寛永元年九月六日高臺院逝去
初雄父秀雄幼稚より捕て秀吉公に献せ
し祖心は女にて高臺院に仕へ秀雄は孫
たりしゆゑ祖心貞雄と為しそのち祖心
台德院殿
崇源院殿にて貞雄の祖母は水尾祖心
まことにいかさまにて其後貞雄を

貞幕下にて池田家絶しを祖心
祖心付ては江戸にありし寛永八年貞雄十
八歳にて春日局に謁し親清と改め女廿二歳
の時春日局の子稲葉丹後守正勝に嫁し
しそ又の織武を見かしむかしより　十月
九日祖心逝　陽湯麟祥院葬　同九年正月廿五日正勝
卒春日局より上にて養育し
大猷院殿に独備にて白祖心は天國人出より
足なり出は今より新に幕下に仕へし
二十年にて此時分禄二千石餘下　二十後春日局の
周辞しなるか

今度ハ十七年子代姫
一ニ付御中ヘ御使者
東福門院より御料理
菓子其外九四御道具
大奥へ御為とり小笠原の
板福ニ東ニ相

座ニ付御暇被下同く組方ニ罷るとたまわる◯

同十八年八月八日

嚴有院殿御傍近者目處　御被為達

日野
堀田ノ太郎　後備中守　筑前守　八　宗ハ姓　貞雄八四納戸

以前名保
並白信好○慶安二年同元山ニ

嚴有院殿御付衆歩行御供　選御の良

糟谷秋ニ付　杉平和泉守とりく　作下八

今度ハ途中ニ参悉皆ニ常を願ニ而

名相る不勤侍としとく　御役ニ預と被○同

書改　上意を要今之被仰○二於宝二年十二月廿五日書物奉行○同七年十二月十九日西丸被務○貞享元年十二月二日老免○同四年八月十日死七十歳　法名解祥院三弥

貞嗣

与右衛門
実ハ太田用　慶安二子
池田源之丞

婿とれて実父家の名跡とる收貞雄の養子となり家とつく○天和二年九月廿五日大番○元禄九子年正月七日

冨士見宝蔵番頭○同十年二月廿六日死歳
十四葬同寺

貞富　池田勘之丞

元禄六年十二月九日大御番○同十年
家督○同十五年正月廿三日死歳拾
九葬同寺

貞辰　池田孫次郎

元禄十五年三月廿九日家督○享保元
年十月十八日大御番○同十七年八月廿六
死之後葬同寺

貞則　池田源之丞　次郎四郎　勘之丞

享保元年十月九日家督○同十一年
四月廿七日大御番○明和七年八月二日隠
[illegible]○天明八年十二月廿日
出役[illegible]○寛政元年正月廿九日老免

今無役

貞諧　池田七郎太夫弟
宝暦九年十一月廿九日之家督相続十五石
さ札同付役

貞應　池田孫次郎　友之進
高二百俵
宝暦十一年九月廿日初見〇安永七年
七月廿九日大番〇寛政八年九月廿二日
御納戸上總介支配〇同六年十一月十六日
御納戸〇同八年十二月廿六日大番

貞恒　池田巳之助
宝暦十三年二月十九日池田七郎太夫弟吉
子となり候得共不縁にて去る寅実家へ
年七月廿一日離逃致

源姓

池田

頼光之末代瀧口奉役之後改池田稱氏候

次男

利重　池田小兵衛　初名

母　萩原角兵衛某女　河内府中弓削人

妻　石坂六郎兵衛冬至女

厳有院様御代明暦二丙申年十月朔日父隠
居家督内二百石分知○同三丁酉年二月
十六日小普請組ニ入○寛文七丁未年二月大番
○後病気小普請入○元禄八乙亥年二月廿日
病死年六十六芝東禅寺葬

政相

実池田紀伊後改渡辺
池田数馬

養母 長谷部石見守某女

実母 某女

妻 池田出羽守利重女

元禄五壬申年七月廿六日解養子○同八乙亥
年七月廿日家督小普請○寶永二乙酉年
十二月廿四日大番○同五戊子年閏正月廿日
新番○

有徳院様御代享保四己亥年十二月廿七日新

若君様御附〇同九甲辰年十一月廿二日
御本丸七之御部屋御組合溝口源次郎組ゟ組替〇
同十乙巳年十一月廿日小十人入〇同二十乙卯年
七月六日依願先手鉄砲組〇元文三戊午年十二
月四日病死菩提所芝東漸寺葬

女二人

長沢弥三郎雄教妻
池田牧馬政胤妻
池田伊織政貞妻

正胤　池田牧馬　年孫

母　家女

妻　池田伊織政直女

享保十乙巳年八月十一日
有徳院様御小姓　御目見〇同二十乙卯年九月
十九日御小姓組入〇元文二丙午年六月廿一日
家督〇

惇信院様御代寶暦八戊寅年六月廿八日於書院
番之次○同十二壬午年五月廿八日病免寄
合○明和三丙戌年二月四日病死○法名一諾
芝東禅寺葬

政倫　池田新蔵養子　初亀次郎　主馬　御徒
享保十八癸丑年六月廿七日池田縫殿貞
本氏子

池田熊二郎
享保十二戊申年二月廿日死

女弐人　嶋田源六郎定紀妻
内藤甚五左衛門妻

政永　池田義民並

妻　大岩備前守忠恒女

寶暦十庚辰年正月廿八日

惇信院様江初而御目見○明和二乙酉年十六月

二日病死葬二千両久保大養寺ニ葬

某　池田台之亟
宝暦七丁丑年十一月十一日死

女　田沢源七郎正徳男弟三郎正孝ニ嫁離別
後天明六丙午年十一月十二日病死

女　安田主膳久謀妻

某　池田文次郎
寛保三癸亥年十月廿六日死

女　池田瀬兵衛政以妻

政徳　実荒井甚三郎定次次男
池田源三郎
号江戸右衛門後改東五郎

養母　池田瀬理政恵女

実母　[illegible]

妻　池田数馬政胤養女

明和二乙酉年十二月七日家督年十四○同三丙戌年

天明六午家督相続○同八戊申年九月廿六日
御番入西丸御書院番○寛政二庚戌年十月六日
御先手鉄炮頭被仰付○同八年十二月十一日病死○同月廿八日○九十一才
夜九ツ

政具　池田長三郎

女

菅原姓

池田　本氏大塚

大織冠鎌足之裔池田出雲守政長
祖父大塚三河守秀元後胤之名乃佐仁
代之京都之河野守御國秋田城
討死仕り其時嫡子仕り名乃佐仁
出雲守父大塚彦次郎元重加州金
沢居住仕り由緒ニ付時茂足ヲ入門依願

今之図書儀母方祖父池田長吉ニ而

之図書儀代々母方苗字池田ニ而候

金森法印濃州武儀郡上有知ニ會

山城ニ居候ニ付図書儀右法印方ゟ

在城扶持居申候法印卒去以後

権現様関ヶ原　御出馬之節　御陣

而図書儀相伝シ申ニ付内匠書当番

改長

池田図書

母　かゞ國牢人池田長吉女

妻　不知

権現様　御代慶長十七壬子年十月晦日召出

並ニ千石之御墨印頂戴○

台徳院様御代も右千石之　御墨印頂戴○

大坂御陣御供○寛永九壬申年七月

十三日病死浅草白泉寺ニ葬

権現様御頂戴今ニ所持仕候 御書下之写

美濃國武儀郡小屋粁村内参百石同郡有知村内参百石同郡極楽寺村之内参百石合千石之事

右宛行訖全可領知之也

慶長十七年十月晦日 御書判

池田長(?)蔵とのへ

台徳院様御頂戴今ニ所持仕候 御書下

美濃國武儀郡下知村之内七百石小屋粁村三百石合千石事令扶助之訖全可知行之也

寛永二

十二月廿一日 御書判

池田長(?)蔵とのへ

権現様 御實名 御書判

二月六日 御實名御書判

太田刑部少輔ニ被成下候御書只今頂戴仕候

書面焼失仕候ニ付写申候

長右 池田右近

母 妻 出生不知

大猷院様 御代御小性組○寛永十癸酉年

並御加増二百石都合武百石上総國ニ而頂戴○正保二

乙酉年閏五月廿八日病死 葬所不知 法名白泉

葬

長得 池田主膳

病身ニ付名跡立不申候

豊長 池田七左衛門

父池田帯刀跡寛永九申年十二月七左衛門

並給ニ武蔵國郡ニ而百石村ニ而頂戴仕候

同郡山本村ノ内ニテ百石加増都合テ二百石余ヲ知
行ス都合テ八百石○寛永十年並山城国ニテ加増二百石

長艶ワヤ　池田猪十郎

母ハ不知

妻ハ谷岡孫助衛之女

常晉院殿御代御小姓組○寛文三癸卯年

九月六日病死歳不知浅草白泉寺ニ葬

女子二人　狭山氏代官井戸若狭守正弥妻

御小姓組　加藤家左衛門　妻

大御番　関太郎左衛門　妻　後離

長猪カメ　実池田主馬長子　池田右左衛門　猪十郎

養母　谷岡孫助衛之女

実母ハ不知

妻ハ大森縫殿助直女

常晉院殿御代御小姓組○天和三癸亥年九月

廿六日病痾卒年不知浅草白泉寺ニ葬

正長

実池田甚之丞長次男
池田市之丞

養母　大森縫殿助頼直女

實母　前田玄蕃頭定正女

妻　御書院番安藤彦左衛門正重女

延宝三乙卯年十二月兄池田甚之丞将監養子

延宝四丙辰年七月十二日跡目小普請

○延宝五丁巳年六月十日御小性組○太市之丞

養父池田吉左衛門料知之内分地五百石之○

右合家督九百石○天和三癸亥年十二

月十四日辞下○貞享四丁卯年十二月十日桐之間

御番入○同五戊辰年正月十八日御小納戸○元禄

三庚午年十二月十日小普請入○同五壬申年

三月十八日御番入○同九丙子年七月廿日

御小納戸○同十年九月晦日二丸御留守居○正徳

五乙未年二月十八日老免寄合○享保五（先祖書）
庚子年十二月七日隠居ニ而儀隠居料
○同九甲辰年二月廿八日病死七拾九歳小石川
戸崎町光運寺葬

実ハ伊東刑部左衛門祐恭ニ男
長俊
池田市之丞　初甚太郎
養母　小書院番吉安藤左衛門次重女
實母　小普請小栗孫左衛門正信女

妻　養父正長女
元禄九丙子年八月九日嫁養子○同月十六日
御目見○宝永六己丑年四月廿一日御書院
享保五年十二月廿七日
番○正徳四甲午年十一月家督○享保九
同六年二月廿六日御番免
甲辰年十月廿二日死○同十八癸丑年
二月二日致病死○同年十二月十四日七拾
九歳ニ而病死深川白泉寺葬
女二人
養子長澄妻
小性組大久保源左衛門忠附妻

長丘　池田権左衛門　初　市之丞
病身ニ付見放候
長高　池田令次郎　市之丞
母　池田市之丞正長女
妻　大関村円覚目向守正峯女
享保十八癸丑年兄之病身ニ付長高見放之
依之同年五月廿日家督小普請〇同十九
甲寅年十二月廿二日小普請支配當〇寛保二壬戌
年[redacted]三月廿四日病免小普請入〇宝暦八戊寅年十二月
廿四日病死巳積九歳浅草向泉寺葬
長峯　田安小姓　池田令七郎　杦暦　笑疑
享保十四己酉年四月十二日切米弐百俵
於下之丸被下置小普請入〇二清父市之丞家
較小切米指上
長恒　池田一得　後名令之助　平左衛門

延享五辰年二月新御番伊東[illegible]組
[illegible]病氣ニ付御番御免（附）
後居仕候家業仕師匠ト紀仕候名跡一澤[illegible]家督
与申候

女　[illegible]氏蘆部新六郎妻 幼名 留代 又名 松尾 後 清涼院

蘆部新六郎死去後享保九甲辰年八月
有徳院様 御中﨟ニ相勤○寛保二戌年十月
御宮[illegible]ニ松尾与改○寛延[illegible]年
有徳院様 薨御以後同年七月剃髪清涼院

与改後御切米御合力今以被下[illegible]年々[illegible]被下
宝暦八寅年九月十六日病死

女　[illegible]院書瀬名右衛門大夫義珍妻 幼名 [illegible] 又 池田 後 蓮池院

右衛門[illegible]付離別以後享保十二卯年
利根姫君様 御中﨟ニ相勤 御逝去後
源姫[illegible]年[illegible]池田与改[illegible]後[illegible]剃髪仕
蓮池院与申候[illegible]己卯年十月十六日病死

長置（まさき）　池田吉十郎　初富之助
母　同日向守正峯女
妻　寄合池田右京頼毅女
宝暦八戊寅年六月八日家督小普請○同年
九月廿九日西丸小姓組○同十庚辰年四月朔日
大御所様御附○薨御之後同十一辛巳年八月六日
小十人組○同十二壬午年十二月十五日

大御所様御附○明和六己丑年二月廿二日小納戸
○同月廿八日西丸小納戸○同年十二月十八日布衣
○安永八己亥年二月廿四日
若君様薨御之後同年四月十八日寄合
○同九庚子年十二月廿五日病死[illegible]二歳法
葬白泉寺○吉十郎後
浚明院様御代被召出之面々　上覧有之候者
○明和五子年正月十六日小普請入　[illegible]歳[illegible]

同月十六日時候〇三安永七戌年十二月廿日於江戸

孝恭院様大納言様御附上臈人附年寄之内頂戴

〇安永九庚年正月十二日於御殿御附場所射

ノ上十二時候〇同六同年正月十二日叙[illegible]

今日被時候〇同七戌年十二月〇同年中[illegible]居分

〇安永八亥年二月廿四日

孝恭院様薨御之後為御菩提寄合七条[illegible]

院主被御免之同所境内家来被叙[illegible]

枝葉之項戴位

養女二人

二人倶実父池田権右衛門長女

長谷川[illegible]忠雅妻

桃[illegible]正[illegible]妻

長守

池田吉兵衛　早世

実池田佐兵衛[illegible]

池田大門

政方次男

政宜

実母

池田彦兵衛[illegible]女

家女

安永十丑年三月廿二日家督 長子源武小普請〇寛政元

酉年正月廿二日隠居

養女

同苗大番池田权衛長章女

養子政重妻

長恭 三平

小普請中條山城守組池田彰次郎政長次男

池田彰次郎

喜平郎

養母 池田喜平郎長置養女

実母 小姓組水野清次郎元稜女

妻 養父政宣女

天明八申年九月十九日智養子〇同年十月

廿二日家督〇寛政元酉年八月十九日家督

小普請〇同四年十二月十四日西丸御書院番〇同五年三月

廿六日中奥番三千石〇同九年四月廿四日大納言様附

女

養子長恭妻

源姓
池田
紀伊國住人池田教正長照嫡子

吉長

池田清長

母　筋目不知

大猷院様御代御納戸衆・御花入○後西丸組頭○後病免

小普請入。元禄二己巳年十二月十七日病死年七十二歳
不知浅草法泉寺ニ葬

右紹
初不知池田又左衛門家来
池田諸左衛門

養母 家女

実母 筋目不知

妻 小十人組
古川武右衛門某女

常憲院様御代天和二壬戌年月日不知養子。元禄
四辛未年七月日不知家督小普請。同五壬申年
六月日不知承父跡勤役定。同十四辛巳年月日不知
御役不叶御役御免。同十五壬午年正月
常憲院様ニ 御目見。宝永七庚寅年十六月日
不知御抜家宅。享保十九甲寅年二月晦日病死
年不知 三十三歳 浅草法泉寺ニ葬

長秀　実池田長五郎長政次男　池田長五郎養子　新三郎　後兵馬

養母　石川武右衛門某妻

実母　仙波六郎右衛門某女

妻　平岡六左衛門某女

有徳院様御代享保十六亥年九月十八日御養子○同十九甲寅年十二月十二日家督小普請○元文二丁巳年閏十二月七日小十人組ニ出番入○小浜数右衛門組

後有宝暦六子年六月廿八日逼塞○同年十月廿日逼塞御免○同八戊寅年四月十二日病気小普請入○明和六己丑年十二月十九日病死年七十法名浄泉院泉寿寺ニ葬

長春　実小浜数右衛門某二男　池田安之助

延享
寛延四年十二月廿四日養子○宝暦二壬申年
十二月廿六日出番入小十人組○後病身ニ付御番御免願

隆尼女 実家所縁親族之内川田氏之者 今者ニ仕テ宝暦九己卯年五月令離縁尼女 ○明和六己丑年十二月十九日病死年二歳八幡泉福寺葬

光保 左京之助
光重先妻子
宝暦六子年十二月日不知小普請左右助勤番

女 半入組石米勝助成比妻

政元 小普請 後清之丞改名 池田清之助

養母 宝暦元年甲戌文化 年田六兵衛 某女

実母 大田氏 後藤清之助 女

後内蔵允 御代明和六己丑年十二月廿四日家督年若子○同
年十二月廿六日家督小普請○同九辰年十二月
九日御書院番小十人組○安永二年年五月廿日
病死小普請入合○同五申年十二月廿日再御番小十
人組○同七戌年九月廿日病死小普請入合寛政
十年八月廿九日致仕

政利
寛文十年八月廿九日卒
池田重之助
高三百五十俵

池田筑後守正純之系

源姓
池田

家譜
先祖池田筑後守正純以来氏録當帯下々
為攝津国住居[illegible]之二男也而庶子親元[illegible]根
本經山郎利根本經山以上至本郷止氏子之家
池田山臣細川書自稱其名[illegible]
攝津国住人池田兵庫之助親元次男

政利
勝正　稲木利兵衛　新之丞
武州浪人之之延宝八年月日[illegible]六十八歳二而卒
某年月日　他居

厳有院殿御代寛文十庚戌年[illegible]
継父重跡現米八拾石[illegible]

政利（政勝）　樫木氏之子　後号池田改

妻　奥平大学頭家人　玉置市郎兵衛某女

天和二年正月之年…元禄十二年　隠居　享保四年九月十六日死　七十五歳

常憲院殿御代先規被召出○元禄十五壬午年十二月日不知奥向坊主組頭被仰付其後池田改

厚利（アツ）　池田新兵衛　初名某

母　奥平大学頭家人　玉置市郎兵衛某女

妻　稲葉丹後守家臣　某玄好某女　後妻年月日不知離別

後妻　同人隠居　大橋何某女　後妻之女

常憲院様御代先規見習罷出相勤○元禄十五壬午年十月廿八日父政利病気有之退身仍而父之家相続被仰付

勤○

有徳院様御代享保三戊戌年十一月廿八日大久保組被

般所々武蔵上野下総常陸遠国江鷹場巡見
並御用重開之中ら　御弟帝成被仕候之年
合七ヶ所澄定之上遠国二而右場所国同六辛年迄
年之間々年之内去林民村江御用勤。享保十二
戊申年六月廿九日高く新田並見前鷹場捨地御用
同十四年十二月之廿日同之之鷹場捨地。同年四月日光御役
御用。享保十五庚戌年十二月十九日ゟ文統勤定。
同十七壬子年十二月ゟ不知行迄高前役目之定
六辛酉年十二月十日元方御金奉行。

惇信院様御代寛延二己巳年六月廿九日安士
見習寄支配被仰付之段。
浚明院様御代明和三丙戌年十二月八日病免小普請
頭支配今家督同年同月十七日病死年
八十三駒込龍光寺に葬

政隼（ハヤ）　池田紀文　初惣兵衛

母　稲生丹後守諸御　森□□□□□□妻

有徳院様御代元文五庚申年十一月廿二日御勘定。
惇信院様御代延享三丙寅年九月廿六日御細工人
御用掛助○同年十二月廿五日道中人馬割御用
○寛延元戊辰年十一月廿四日細工人役御免ニ而只今
割御用御勘定下役大坂え被遣同七月廿八日帰府
御目見同月廿五日御普請元締格役○宝暦元
辛未年十二月廿八日評定所留役○同二壬申年
八月廿六日留役病免御勘定。

浚明院様御代明和三丙戌年十二月廿二日家
督○同六己丑年九月廿五日御林奉行○安永八
乙亥年八月廿四日依願新規御普請役組頭格小普請入
○天明四甲辰年七月廿五日病死年七十八歳號之
年七十[illegible]

女三人
田安御家老[illegible]妻
三[illegible]妻
中奥番[illegible]妻

政武　池田修理

妻　高橋六兵衛政茂女

浚明院様御代明和六己丑年正月廿六日御勘定。

安永八己亥年十二月廿八日東海道川々御普請

出精○同年十二月二日出張○同九庚子年二月十七日

御序　御目見○同月廿七日出役被免令附役○寿

同辰年十月十九日病死年五十七駒込龍光寺葬

政房　池田藤大夫　初修右衛門

政雄　池田修八郎

女　新人　大番藤奥右衛門組　同組高橋六兵衛政茂養子平左衛門妻

元愷　四番土屋市右衛門養子　土原深助

明和七庚寅年五月十日上京平蔵緒方甫養子

豊次
中老格
桜井松之助
享保八癸卯年十二月廿七日 桜井松之助所ニ養子

女二人
東条善助井上良泉法眼玄可妻
新井若右衛門妻
二人共死

次蔵 英
実御家政武忠
池田政之丞 初御番 高五百石 現米八十石
母
同人
大島権之丞次義女
妻
三宅
祖父三宅三左衛門女
後妻
同
大久保半左衛門娘女

浚明院様御代天明四甲辰年父次義病死有同年
七月廿日嫡孫承祖○同年十一月廿日家督也
高五百石○寛政四年四月廿五日御役御免 三月廿日
同年九月廿五日勤人 同十二年十二月廿八日病死
七拾三歳板

源姓
池田

源頼光九代右馬允泰政後胤
正三位播磨宰相松平三左衛門輝政男

輝澄
松平石見守　初松千代
従四位下侍従
母　権現様姫君
良正院殿
妻　生駒讃岐守正俊女

慶長九甲辰年四月廿九日於播州姫路城
生○同十乙巳年四月日二歳ニ而母
良正院殿相副候而播州ゟ伏見江下向初而
権現様江御目見仕　御手自御子之称被
仰付　良正院殿御領之内ニ而
西郡様（良正院様御母堂　法名蓮葉院殿）御信仰之日蓮宗御信仰ニ付
松千代之御儀ニ　千五百石
権現様御宗旨ニ被成候旨之御領知

権現様松千代ニ被為　右御様下母之信形以来
日蓮宗ニ付松千代之儀も母之父輝政ニ改
池田ニ母方
祖父之氏ニ而御宗旨　右之趣則松平之御称号ニ被
下置候所御様子之様子之相違仕候旨
上意ニ而右光御小姓頭相済松千代改名輝澄与
改名ニ仰付○同二十乙卯年従五位下十二歳大坂
御陣御供○同年月日従四位下石見守

○元和三丁巳年十四歳ニ而従五位下 月日不知 ○同五
己未年福嶋左衛門大夫正則依背御制法其外松
平宮内少輔忠雄ニ共ニ藝州広嶋ニ相詰候
大坂御警衛両度江戸御警衛両度相勤ル○
寛永三丙寅年 月日不知
大御所様 御上洛 御参内奉仕八月十九日
輝澄被任侍従従四位色林文其貫年家
勅許号山崎侍従此時輝澄弓馬芸等
叡覧
大御所様被為在 上覧 感被為
思召候
台徳院様ゟ貞勘實之御脇指拝領
大猷院様則宗守家之御脇指拝領○同八辛未
年兄政綱病死依嗣子無之領地赤穂ヲ
忠雄ニ被下候 上意ニ而于時忠雄申上
以之外輝澄輝興兄ハ能々有之附太郎人

與一兵衛領知

右徳願様ニ奉公ス　蔵人丞ニ叙ス後ニ江戸ニ
上意ニよつて輝興ハ能化播磨國轉佐関家
積銀ヲ給ル佐関家ヲ輝澄ニ加ヘテ都合
六万八千石ヲ領ス○同十七庚辰年七月廿六日
家中騒動ニ付領地ヲ召上ケ松平相模守光仲ニ
御預ケ同國鹿野ニ居住ス江戸ニ付播磨神谷郡ニ下
南郡ニ而同ニ百石江戸ニ而宝料賄石ヘ与ヘ被下候

○寛文二壬寅年六月十八日病死五十九歳

改直　松平能登守　実母

明暦四戊戌年三月廿九日松平新太郎光政
松平相模守光仲ニ預ケ於テ同年六月十八日
於播磨神谷郡ニ南郡ニ而同新田ニ而高二百石ニ下
○同年五月廿五日初而　御目見○同年閏十二月朔日

諸大夫○寛文二壬寅年父輝澄遺領備中
負守ニ勤ム○同四甲辰年月日知行所ヲ許
御暇○同九己酉年十二月八日病死歳三十二

某　池田久米助

政済　池田勝左衛門　幼名代

母　生駒讃岐守正俊女

妻　小出大隅守有宗女

寛文九己酉年十二月八日兄政直病死仕嗣子
無之ニ付江戸ニ而兄政直遺跡之儀ニ付存生中ニ
而御老中ニ病中ヨリ願在之付松平新太郎光政松平
相模守光仲ヘ右之趣申上候処義存寄ニ池田冬
御池田勝左衛門ニ而御座候処光政光仲ヲ以
一門之親類共大身之人ヲ以ニ而願置候ニ付
政済ニ而ニ付五千石同十庚戌年二月十五日千網松平
継遺跡之高二万石之内池田冬ニ而分地之五千石
遣置家督合

同様兵馬二千石寄合光政光仲預ニ而在江戸〇同
年巳月廿八日政済同道ニ而薦野ニ而参府同年六月
厳有院様ニ初而御目見〇元禄十丁丑年十一月
十日病死五拾七歳葬之三輪東光禅寺ニ葬ル〇
惣領様ニ御預光政光仲被指政済ニ而相議今ニ而相勤
仕ル

政周ヨシ
津田伊豆守
初 内記

母 小出大隅守有安女
妻 元禄六年六月朔日初御目見
元禄十丁丑年十二月十日家督〇同十一戊寅年
二月十日家督御礼〇同十二己卯年八月一日従
叙爵五位下〇同十三庚辰年正月十一日御小性〇同十五壬午
年十二月一日諸文伊豆守〇宝永二乙酉年
閏正月廿八日病死二十九歳葬之三輪東光禅寺
法号

某　池田猪右衛門　早世

女三人
嫁今宮源之丞和昭妻
嫁与力酒井勘右衛門康穏妻
嫁松平福井求馬政周妻

政職（モト）
実者今松平又兵衛政武四男
池田内膳
養母　前々
實母　家女
妻　養父政周養女

始松平伊賀守殿政家来池田内膳養子と
成政周嗣子なき故養子となる〇寛永
二年七月晦日家督嫁今〇同年十二月廿八日
初而浚明院殿御目見〇二年後家治浚院殿年出西丸御書院番年月
知〇享保十丙戌年月日之御召出西ノ丸御番〇同十七
未年七月廿八日病死四十七歳葬芝寺瑞東
法名寺之蘇

養女
實池田備前守政済女
養子政職妻

政休ヨシ　池田縫之助
一 母　池田伊左衛門政周養女
妻ナシ
享保十七壬子年十月一日家督○家督
留ニ被仰付病気ニ付候處無御礼ニ而後病気
快気ニ付　御目見ニ養子ニ奉願候例
之通二月ニ病気ニ付是迄年之蔵ニ仕

御当役相勤候處享保二十一丙辰年
六月七日願之通ニ願ニ付相之治政親願
政休養子相模守養子大組ニ
継政晃之致ニ被仰付同年六月十二日養子ニ仕
旨被仰付六月廿七日池田織部由道二男池
田藤太郎由學子ニ後政清 政義養子被仰付○寛保元
辛酉年十月廿九日病死二十歳葬地二輪
東禅寺ニ葬

内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

女四人
早世
早世
小普請駒井左京政潔妻
早世

政義　実ハ多谷池田織部由道之男
池田辰五郎

養母　同し
実母　家女
妻　石黒以前豊後守良端女
元文元丙辰年六月廿七日若子○同四己未年
十二月七日初而　御目見以後年始歳暮御目見
之而孔雀織○寛保元辛酉年十二月廿七日
家督寄合○同年十二月廿四日御書院番○
延享三丙寅年十二月十四日火事場見廻
○寶暦四甲戌年正月十一日御使番○同十二月
十八日布衣○同十九日大坂目付代○同五乙亥
年正月十八日御徒頭○同年九月十九日帰府
御目見○同六丙子年九月十一日病死六拾三歳
芝高輪東禅寺ニ葬ル

某　池田今七郎　早世

政朗（アキラ）　池田宗女　初名長七郎

養母　藤堂肥後守良端女

實母　家女

妻　柳生備前守俊峯女

資曽惣領願年（不知）月○寳暦六丙子年閏十一月

二日家督三千石（病気ニ付名代）○同十二壬午年十一月二日

御勤○同年十二月十七日初而御目見○明和二

乙酉年正月十六日市谷御門番○同五戊子年

正月十二日寄合女与役○同月廿八日市谷御門番

御免○安永六丁酉年正月十六日市ヶ谷御門番

○安永八己亥年十一月二日火事場見廻○天明

二壬寅年四月廿一日病死　行年三十五歳　葬高輪

東禅寺（上葬）

某　池田長三郎　早世

実池田修理亮政方曽孫　池田隆之助

方教

養母　柳生備前守俊峯女

実母　家女

妻　養父政朗女

養子　諱年月　○天明二壬寅年七月廿日家督　元高

新番　○同八戊申年十二月六日出勤　○同　年十二月

廿六日初而　御目見　○寛政二庚戌年八月

廿一日寄合出仕　○同七乙卯年九月廿八日

病死　二十七歳　葬芝高輪東禅寺　法名

女　養子方教妻

政富

小普請池田半兵衛政勝之男

池田直次郎　初鎗之助　三千石　播磨守之同

養母　池田家女政朗女

實母 家女

妻 某父方教某女

養子 実年月〇寛政二庚戌年十二月[illegible]日家督

寄合〇同月廿二日初而 御目見〇同年 四月

廿一日為[illegible]之段〇

養女 実池田宗女政綱二女 養子政富妻

源姓

池田 本氏下間

源三位頼政十六代後胤本願寺家

人下間按察使頼龍長男

本願寺退身後

御當家ニ仕 [illegible]之叔父池田三左衛門輝政家ニ

仕 池田備前守輝政ゟ賞ス

宣利 池田織部 初源七郎 母上臈女

馬名家譜
作四十里

母　池田紀伊守信輝女

妻　薩摩國大守与力之
　　山吉蒼典氏之女

寛文年十九歳年十月廿日　右家督御門之

将現様於駿府被為　召寄

上意四十里と申名鷹并羽織拝領并ニ正服

被下候　上意池田武蔵守利隆ニ預ケ置

被申候と改大坂御陣慶長年中同摂州尼ケ

御城并国相守候へ大坂籠城後為其

褒美於摂州国河辺郡被成女郎之内

一万石被下旨御朱印被成下候元和元卯年

之林於二條御城被下候　御朱印名○元和六巳年

播州ニ而被下　御黒印　御朱印

裁

摂津國河辺郡内切手印

御朱印

北條参石余宍粟郡之内壱万
百七拾六石都合壱万石
事宛行之訖全可領知者也
仍如件

元和元年七月廿七日御朱印

池田[illegible]ちよとのへ

播磨国揖東郡之内北宿
六ヶ村都合壱万石 同郡在別紙
事宛行之訖全可領知
者也

元和二年九月廿六日御朱印

池田[illegible]ちよとのへ

台徳院様御代備前在城之節一宇文正月出役易
廣島城請取之時御役備州加勢衆之内
人数召具罷登
上聞武蔵国之内御加増二万石之内壹千石被遣
其後至備後鞆之番計 浮月○寛永八未年
十一月廿日於江戸病死年四十六深川海
禅寺ニ葬

重政 池田内記助 初勝右

母 岩木某女

妻 小堀某女

元和元年四月初見○寛永八未年

某月日不知家督 御目見○寛文五卯年

六月廿四日病死年四十九深川海禅寺ニ葬

薫彰（テル アキラ） 池田甚右衛門 初大吉

養母 中山□□□之女
実母 家女
妻 戸川左衛門正安女
寛永元年十二月廿日
年十七歳ニて家督 御目見○寛文三卯年 寛文三年十一月廿八日叙爵
正月御番 叙播磨守 新番頭 元禄二年
一 其年同所ニ寛永寺梅巌院ニ葬

女子二人
初ハ 細尾権之丞業教妻
後ニ縁組 牧野日向守□長妻
実ハ 細尾権之丞業教女

邦照 池田文八郎
母 戸川玄蕃正安女
寛文三年三月廿五日生
年□□□□家督○寛文十戌年正月廿八日

某病死年十二浅草海禅寺に葬

重救
池田治兵衛

重穀 タカ
実池田織部某か二男養子
池田治兵衛

母 戸川庄兵衛正安女

妻 松平備後守恒元女

厳有院殿御代寛文元年兄新四郎幼年にて
死去に付其以後跡式遺領相続同年十二月
十七日新規に二千石寄合に入元禄八年
隠居同年病死年六十二浅草海禅寺に葬

重道 初由利
実松平伊豆守か家臣池田主水忠孝か男
池田織部 初勘解由 生玄二郎

母 松平備後守恒元女

実母　家女

妻　伊達能登守宗保女

常憲院様御代元禄八亥年七月廿日家督○

同年八月二日ニ家督之御礼

同十丁巳年九月廿二日従五位下壱岐守○同十五年正

六月廿日従四位下○同年十月朔日少将任兄寄合

○享保十九寅年十二月廿二日隠居料被成下

寿唐院と号寛保二戌年二月十六日病死年

六十二才於江戸表葬

池田右京　初淳正　千代松

継敬

養母　伊達能登守宗保女

実母　家女

妻　松平久馬助政森女

有徳院様御代享保七寅年六月廿日初ゝ

御目見○同十九寅年十二月廿二日家督[illegible]
○寛保二戌年四月十九日病死二拾七歳法名浄栄
海禅寺ニ葬

政方
池田信濃与 後[illegible]
年月日不知池田内匠政衛養子

政員
池田[illegible]
年月日不知池田勝助政休養女

女子二人
沼津[illegible]妻
池田[illegible]政[illegible]養女
大[illegible]妻

頼政（ヨキ）
池田[illegible]之助 松[illegible]
養母 松平[illegible]馬助政[illegible]女
実母 [illegible]女
有徳院様御代寛保二戌年七月廿日家督○
同年戌七月廿[illegible]日[illegible]

明和二戌年四月六日隠居料廿人扶持○寛政元
酉年十二月十二日病死年七十八法名常海禅寺ニ
葬

女子四人
早世
戸田左京氏吉妻
仲ヶ嘉兵衛 松平仲 宗尾妻
内藤小納戸 池田右十郎長重妻
後土屋備前 井戸十左衛門治徳妻

重好 初名織部
当織部
母 家女
妻 伊木長門忠和女 後年伊織与家改郎某

惇信院様御代宝暦十辰年四月廿八日初而
御目見○明和二戌年四月六日家督寄合○
安永九子年八月廿日隠居

頼完 サダ

実松平右衛門督頼賢[illegible]

池田百助　三千石

養母　伊木長門守知女

実母　那須[illegible]女

妻　実池田信濃守政方女
　　養父池田[illegible]女

浚明院様御代安永九子年八月六日家督寄合

同年十一月十八日初而　御目見

女子二人

実[illegible]伊木長門守知女
[illegible]長谷川九郎兵衛妻

実池田信濃守政方女
養父池田百助頼完妻

頼功 ナリ

千之丞　初右一郎　錦次郎

実池田信濃守政方二男

寛政四年九月廿七日養子　同十二年十二月十二日

勤仕[illegible]

源姓
池田
清和天皇六代孫摂津守頼光七代
池田豊後守頼基十六代伊賀守
主殿嫡子
和泉　初猪之助　後松右
主膳
初江州佐々木郎従同常貫

致仕後号宗又永縁十一年御給
落之後新光入寸附添候
同氏池田庄兵衛辞後今三石
石沢被則房弁役内五路
業之其了刺賀相居之役日書文良
十七子年十月二日病死六十九歳

皇次

道陸
七

寛永二丑年　初名
右衛従縁ニ　御目見○同年五月岩年跡
御被出御番ニ被召出○寛文
元子年宮月十五日病死六十七歳分年
南泉寺葬

章善（ワリ）

陸
七

初宗孫
道行

寛文元子年七月二日家督
與寄合○正保二子年八月十二日

高九 三千五百石

実池田九牧次男
新居 初喜三郎 後藤

本家
万治二亥年十二月十六日家督安
時御目見 厳有院様江召出 同日九歳 御目見○寛
文三卯年十二月十六日厳有院様御附
御番被仰付 御書院番被仰付○御
成田御番中 上意

御番頭被仰付 御小姓組組頭○同
年十二月廿二日御書院番頭被仰付 御組
御小姓組番頭 同年 同年十二月廿六日
同六年十二月廿六日 御側衆被仰付
御側衆○同年 後藤 同九丙年閏六月十日御側御小姓
御書院番被仰付 御小姓組番頭被仰付 也
寛文二年十二月廿五日 御側衆被仰付
西丸御側○同三卯年十二月廿四日御書院
御小姓 上意 御側衆○同日

長年二月廿八日　御殿江被為成候間、
午年二月廿六日同七未年二月
廿日　御殿被為成候○三月廿九日
同年十二月廿七日新御殿江被　為
成候○同二戌年八月廿六日
[illegible]新御殿江被　為成候○同
二亥年十二月廿六日[illegible]新御殿江
[illegible]被成候　御[illegible]二月廿三日[illegible]
御殿被成候○同年十二月廿六日[illegible]

同年七月[illegible]御殿[illegible]
[illegible]被成[illegible]
[illegible]被成候
○[illegible]年十二月[illegible]
[illegible]○同二年十二月[illegible]
[illegible]被成候○同二年[illegible]
[illegible]新御殿[illegible]
[illegible]
奥州[illegible]

御目見○同八亥年十二月加増百俵○宝
永二酉年五月廿九日病死　四郎次
其以前○同三戌年十二月廿二日
病死六十三歳八月廿日

安川

新番　小幡伊助　清五郎

元禄辛巳年十二月廿五日初而　貫之○
同六酉年五月廿七日大番○宝永四亥

年十二月十七日跡目○同五子年六
月十一日御番入○享保五子年
六月十日退役○元文五申年六月廿七日
病死七十二歳○（元文元年七月朔日隠居）寛延四未年十一月廿七日
隠居病死九月廿日

安芸

新番　初長太郎

（宝永七寅年五月十二日生）
寛保元酉年七月十九日家督○延

享保二丑年付十二月右衛門督 同月 明和元申
年七月十二日薨 九十二才 九十九歳(?)

新居 初號○○

資孝〔カツ〕
(享保十年七月朔日生 二男)
明和元申年十月廿六日 元服 從五位下 同日
元文年(?)同月十二日 叙従五位上○ (同三年十月十日)
安永八亥年十月十七日薨 六十三才(?)

(実ハ○○○○二男 母○○七男)
同紀 秀○ 三二○○

資卿
安永六酉年十二月十七日解 叙従五位下○
同八亥年十二月(二十)叙從五位上○元服
同年十二月廿二日初見○ 二月 任侍從
天明六月十九日叙正五位下○同○
年九月十二日從三位 ○○○○

源姓
池田
源頼光後胤池田右馬允泰政流
摂津国住人池田紀伊守恒利男勝入
信輝ト号

輝政
初名一郎

長吉
天正九年叙爵受領備中守

閏正月七日　享保十九寅年九月廿日
病死（而御除）　御番頭池田長門守跡
御目付ニ而卒

鵜殿与　始浴[illegible]

安芸
享保元申年十歳ニ
猪飼[illegible]
台徳院様ニ　御目見候

台徳院様新番頭より御旗奉行ニ而同十九年
年御番○同年免ニ而隠居
寛文元年[illegible]○元和元卯年
[illegible]池田武蔵守殿[illegible]
同二年御付[illegible]○同年御番頭
[illegible]○同二年[illegible]
[illegible]
[illegible]○同[illegible]年[illegible]○同
年[illegible]

御父方御祖母國二[illegible]○同六
年十歳[illegible]○寛永元年
年同前[illegible]○同九申年
台徳院様 [illegible]月 [illegible]○同年
江戸七月 御死[illegible]芝東禅寺葬

長常

御名[illegible] 姫君様

慶長十九寅年大坂陣[illegible]

台徳院様ニ[illegible]○[illegible]
修理様[illegible]○元和元卯年七歳[illegible]
諸大夫[illegible]○同二辰年[illegible]月
大猷院様[illegible]今之[illegible]
須○同二[illegible]年[illegible]寛永九申年[illegible]
[illegible]○寛永九申年[illegible]
[illegible]○同年[illegible]月廿[illegible]
[illegible]○同[illegible]年[illegible]
国之[illegible]年

八月二日於總國采地○同十二年戸
田居住○同十五年宮[illegible]御手[illegible]預
番町居月二日○同十八年[illegible]
山寛永五[illegible]繁市ケ谷屋敷○同年
乃[illegible]病死二十[illegible]歳同所
他山寺[illegible]　[illegible]歳
二男子[illegible]寛永十七辰年
病死[illegible]
大猷院殿御代[illegible]

右[illegible]領[illegible]居[illegible]　[illegible]

女子　[illegible]
寛永十二年八月廿日死

女子　[illegible]

女子　[illegible]
[illegible]人[illegible]

長守

猪助

[illegible]人手立山知行高[illegible]年

七月九日新知[illegible]藤[illegible]伊賀守[illegible]

御目見[illegible]大須賀[illegible]伊賀守[illegible]

切米[illegible]御役[illegible]被仰付[illegible]

伊賀守[illegible]伊賀守[illegible]

御番[illegible]書[illegible]

三宅[illegible]

長親

奥津幸子○正保二酉年八月

[illegible]

十歳[illegible]家督相続[illegible]

[illegible]勤[illegible]

使番[illegible]勤[illegible]

享保[illegible]年十月十三日[illegible]

[illegible]元服[illegible]年[illegible]

四[illegible]七[illegible]

長谷

実ハ長谷部〇〇 修理　熊蔵

天明四辰年三月元服御目見
寛政十一未年十二月御小納戸
出役ニ而
大御番組頭
頭取衆 同十七 御使番仕候処当寺宛
相勤申候 寛政辰年十二月十九日御暇被
罷出候 同十九年〇同十四巳年以後御暇
御目見 同十九年十二月廿三日

中奥御小性 大御番〇文化元
子年十二月小姓組御書院番組頭
天明二寅年八月廿四日卒 年五十八

支配 成瀬弓 姫路 修理

明暦二申年十月十三日父在任御子
宝永七寅年八月御目見〇享保七未年
十月廿二日御書院番〇同三寅八月卒

二十六日出仕御免〇元和二丙辰年八（同年六月廿八日叙従五位下）
月十日出御使番千五百石
高〇同年十二月廿六日御加増
五百石都合千五百石〇
同年十月廿日御書院番頭〇元禄二年
正月十一日新番頭〇同年十月
病死〇同四年十二月十二
月十日隠居〇同年十六日死年十二月九日
病死〇寛永元年甲子十二月六日

病死　五十九歳　同名

　　　　　　御目見　　
改名
貞享三年丙寅年九月十二日初
御目見〇元禄六年十二月九日
御書院〇同年十六日十二月廿六日
〇寛永元年甲子十二月廿三日
同九日　御目見〇同日二千石

八十八
母ハ某 中山氏○同亡室之年行十六
実従四位氏○享保十七年十月十日
小笠原信之氏○同年十一月七日病死
享年二十 法名 蔵前 右京

長次

寶永元申年十二月十日生 次之丞
同年同月同日知行 享保元年
代 月 知行 五千石内
入 是ヨリ 改名 九兵衛 病死 四月十日

豊常

浄理 始万之丞
享保十三年九月十日 初御目見○同十八丑年
六月十四日病死 二十六歳 同年

政倫

享保十八丑年九月二十日初御目見○同十九
日年十六日 家督
家督之節 改名
頼次 始虎之助 後 浄見

定
本多ノ九ヶ国安勤番○同年九
月十九日中奥御番○寛保二年
正月十一日小普請○同年十二月十五日布衣
○延享三丑年九月朔日
西丸御小姓組○同二寅年十二月十九日若年寄
御進物番
西丸御小姓組　御番頭　水野壱岐守組
田安も御用人同月十八日御小姓組　名
同四年十二月廿二日　寛政二年九月十五日

宝暦六子年同六月朔日御小姓組
○同七丑年十月朔日御目付安藝
守　御持弓頭之内
御目付長崎奉行　御勘
以　御目付東叡山御宝前御用
十二月廿九日上之勤○同年十二月廿九日
大坂御目付勤且御旅
御本丸御目付御普請奉行
今之御役○同八年十一月廿七日

同月十六日
春日ニ於テ御鷹狩ノ時 [illegible] 同十一年 安永
将軍家 [illegible] 同二年十二月廿九日 [illegible]
保養 [illegible] 九月 [illegible]

実者常吉改 [illegible]
源次 羅 [illegible] 修理

長恵

三百九石余

宝暦十二年六月十九日 初テ
[illegible] 同年十月 [illegible] 東 [illegible]

小人頭 [illegible] 勤。安永 [illegible] 年十
月 [illegible] 同年十二月十六日 [illegible] 同年十二月 [illegible]
[illegible] 天明元年十月 [illegible] 同年十二月十六日 [illegible]
[illegible]
同六年十二月十二日 御目付。同六年九月
十六日 [illegible]
小人頭 [illegible] 同年十一月廿九日 [illegible]
天明二 [illegible] 同年十二月 [illegible]
[illegible] 同七年 五月廿六日
同三 [illegible] 同年七月廿八日 [illegible]
小 [illegible] 同年十月 [illegible] 同

年十一月朔日御小性組番頭ヨリ
同八年正月十五日大番頭 五月廿九日松平越中守
殿御預ニ成之候處 惣頭得御免 依之御小姓
之御用番之内 御掃除向取締
御役之處之 二百石ニ 御役御免 同年九月
廿六日 禁裏付被仰付 同年 同月
廿日不勤仕候ニ付 御役儀被召上 元文元年壬 六月
三日被仰付 御預ケ 御小性組被仰付候 不調法之
付御役 同月廿二日今度 御目見 前々之通 相
同三年 九月 組頭 其外 福田
月 小普請 被 同 月 御 町奉行

二之
以下未 手控
深津
池田
頼兄弟 家督 相続
修理亮
兼房 初名
利重
明暦二申年十月 家督 延宝 知行 内
二百石 知行 同三年三月十二日 寛文七未年
三月 家督 元禄八亥年十三

同十二日病死 四十二歳 芝東禅寺ニ葬

政相　数馬
先妻岡部[illegible]女
元禄八亥年七月十日家督〇宝永六年十二月十四日大番
同五年壬申二月十日 [illegible] 享保四年十二月廿五日 [illegible]
[illegible] 同廿年二月廿八日 同廿年七月廿八日 [illegible]〇元文
二年十二月[illegible] 病死 六十三歳 同所

政[illegible]　数馬　[illegible]
享保十乙巳年十一月十五日初[illegible] [illegible]
同廿卯年九月十九日[illegible]〇元
文二年十二月十日家督〇宝暦八年五月十日 [illegible]
同十二年[illegible]
明和二戌年十一月[illegible] [illegible] 病死 同所
六十三歳

政永　[illegible]

宝暦十辰年四月十五日御目見
同人〇明和二酉年六月廿一日病死
二十歳西久保天徳寺葬
実保田甘節次男
源節
三浦四郎
内田信四郎末

政徳
明和二辰年十月家督〇同七寅年
九月十六日西丸御書院番〇寛政二戌年四月
三日定火消〇同八子年十二月十日西丸附〇同十一年
九月十四日病死

源姓
池田
一 六百石積里之系
七左衛門積孝男
家督 源八郎
貞孝
寛永二丑年十二月 父跡
継目人 披露 未下口立宝五文上年七月十
五日病死下谷之龍雲寺葬

享保元年
十月廿七日病
死

新河原村　初宇頃　卜為

良孝

正徳五未年九月十郎殿奉行（天和二年）

御奥坊主　同組（元禄八年）　宝永三年十一月

同奥坊主　百俵（宝永元年十月）　享保一両年

同月同病死同日

粽孝

貝河原村　初五郎

宝永二年十月
同奥坊主〇正
徳二年二月十五日
病死

元禄八亥年九月十五日奥坊主

宝永三年二月廿二日叔父孝養子

同奥坊主〇享保

二両年十月九日

同年十月廿六日

同十八丑年七月七日病死同日

正孝

貝河原村　姫訓

享保六丑年十月廿六日奥坊主

同年十二月十二日

同月〇

宝暦元年十月廿六日病死

同十一年同日

孝政　与兵衛　初貞之助　父吉郎兵衛

寳暦元未年十二月継父家督○二番（同二年三月廿七日　御目見○）
同日御目見　天明六午年九月（安永四年七月十日）
十二月病死年五十八歳

孝周
（実修理風間守某次男）新右衛門　初兵五郎　今十郎
高右衛門養

天明六午年十二月継父家督○二番（同四年十二月廿二日元服）
（同六年十二月廿九日　御目見）○二番寛政七年十月十九日
病死

同八年十二月十二日

二ッ之

源姓

池田

蒲冠者範頼之庶子周防姓池田

孫十池田二郎教信ゟ六代

池田七兵衛

正臣

右同家毛利就頼二代ゟ仕候處

其後仕浪人と成周防国致

河放道河浦小居侯毛利家臣を療し
南州医し池田と称し名を
嵩山と改書を好みて就後業
とし其河の戴笠字曼公明孝宗
禎中人儒を業とし浙江
杭州府の学者大なり明年之亂
を避て日本に来る正保年来国
長崎より儒を兼て医業
をも施し防長に来る岩国に居

客となり當たり六年頃に
七年嵩山曼公に書を贈て其業を
とふ曼公書を以て学ぶべき本原を
曼公の云汝醫小児あることを
知る今汝に痘疹の治術を教授
せん為に三日本に於て此術を伝ふ
ふ三女を得て是に至る曼公
口訣を授く七年嵩山從て諸記す
暗く得る所自ら正直痘疹図〇

西洋種痘八編図○西洋引痘図○之
十六図○唐舌苔候○福唐大象○
○馬乳痘図悉く丹青退精さらしき
を画く事実まゝ也西洋ニ而も唐
育嬰源二巻○方論一巻○治痘須一巻
○婦人治痘須一巻○痘疹内一巻○痘
科鍵及決ト洋元一巻あり我学文治
痘釋ト源始より曼公傳ふ流
ゝ云ゝ此法以西洋薬唐本同し秘

決也ニ而種痘大ニ流行し出来の
病夭くしゝゝく牧子児害をさしよ
ねかくゝ牧牛永方済治を撰ひ学識
えくこれ診あるものを撰集め後
漢唐宮名之詳害ニあるに唐語江白
を辨誌しく治痘の要とありて其
則以学百唐ニ其後ありし高他
人ニ教ることおかれ後々家ニ稀有ニ
最善し乃い千様し賓客と此也し

思ふに某志らく為知らずする事
宗治東叢山を也了ぬ深源師某
謂し彦下中子と教く某水紙紫
尚へ也覺云前先色精之流不某
以後貴賀山に流氏讃異流之富
居也号精之居士早見え至る要
寛文十二子年二月廿八日卒也八十歳
讃岳流の流内小泉あり
以精之早云之居と書也

西生ニ正實再ら本ル會其方亮
八十余

正月
寛文清作の二男
宗仙

緑男祖父正重中村子と号す醫之業
とをも寛文八年二戌年二月十六日病死四十二
參州生家清延命下有之要

左卿
瑞仙

寛保元年の夏彦仙死後八蔵ハ
しはらく世を去りて後に八術人と号す
藤作ハ鎗庭煙書ハより詳ならさ
とも其数丈模様ハ増補年々と云略し
志し藤作ハ流術流名よりし途絶
小浪ハ享保中十二年まて同所ニ居
東本軒ハ雑居の流派を号ひ古風
時代と変し無き也作法を顕し
蔵列教授ハ寛延四年二十七日

其後又色鎗庭流術者なとに
小篠家相続て後寛延年中
鎗庭流しハなれとも東武
にて数百兄を相尽く尽ぬ年
小山流人始る学文に流儀の秘術ハ
あるを知るこれよし行と
後ハ其のるまとしとも流古様を
難及し略ハ流儀古法流儀を
志ある人は是ハ仕まして後相

種痘術ハ斯く次第に弘まりの勢あり
しけれ共倍々世人これを信用せす
又惟痘疹の患を恐るゝもの多く
仁術の盛なる万の命を救ふ即ち
業の道を施すの命を救ひ
右等よりの又種痘術を施し
嘉永三年京都にて種痘所を開き
の後京都におゐて京師の名に
高く聞え門人数多

来ことを種痘にて切り
難所の種痘を施し医家七十餘
輩を添し種痘術を施す
痘科辨要 四冊 嘉永八年
免許 医術を
種痘神経 同九年
初而種痘 医師
同月大 同年十二月
初而 同十年
一 天保八年嘉永十二年京大坂江

右ハ和漢図會ノ人物部人倫并ニ異会
之肖像羽翼を飛ぶ其羽翼ハ果ス
唐禅師物語のうちにいふ十六ニ載
是仙人なり

内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan